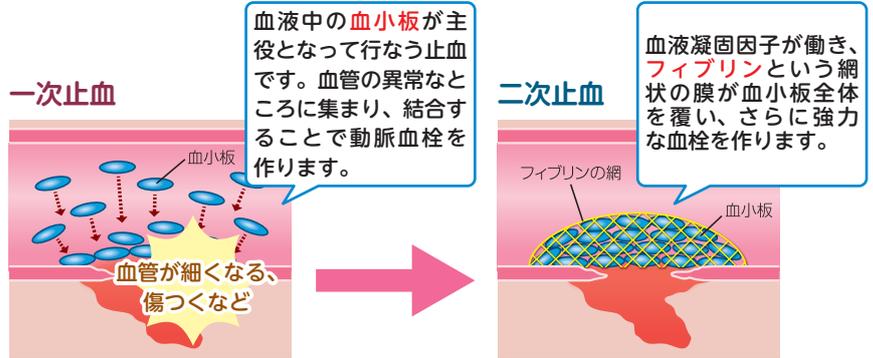


## 血液の流れと病気

### ●止血のしくみと血栓

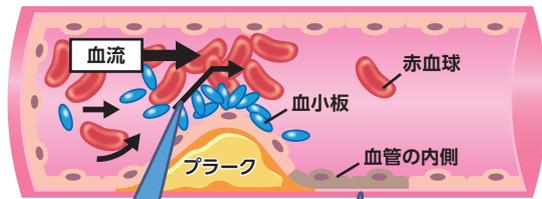
もともと体には、ケガをしたら血を止める（止血）ためのしくみが備わっており、血管が傷ついても、すぐに血小板による一次止血とフィブリンによる二次止血のしくみが働きます。

しかし、動脈硬化や血液のよどみなどをきっかけに、この「血を止める」しくみが誤って働くと、血管内で血栓（けっせん：血のかたまり）が形成されることがあります。



### ●動脈硬化と血栓症

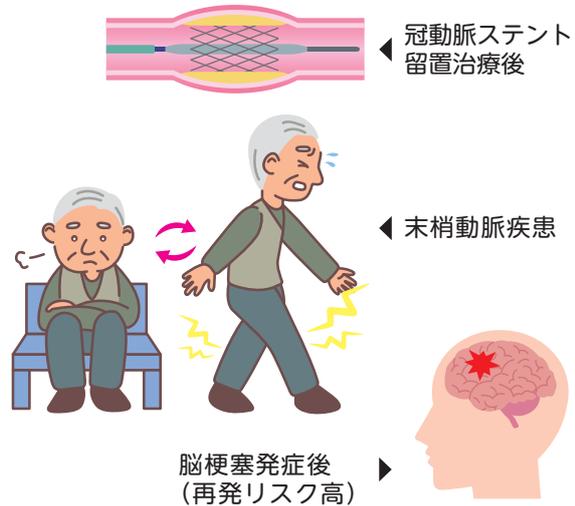
動脈硬化では、動脈の内側にコレステロールなどが付着して血管が細くなり、血液がドロドロになるため、血管が詰まりやすい状態になります。さらに、動脈の血管が硬くなり弾力が失われるため血管の内側がもろく傷つきやすく、血小板凝集による血栓が形成されやすくなります。



血栓を作る要因①  
細く流れにくい血管&  
ドロドロの血液

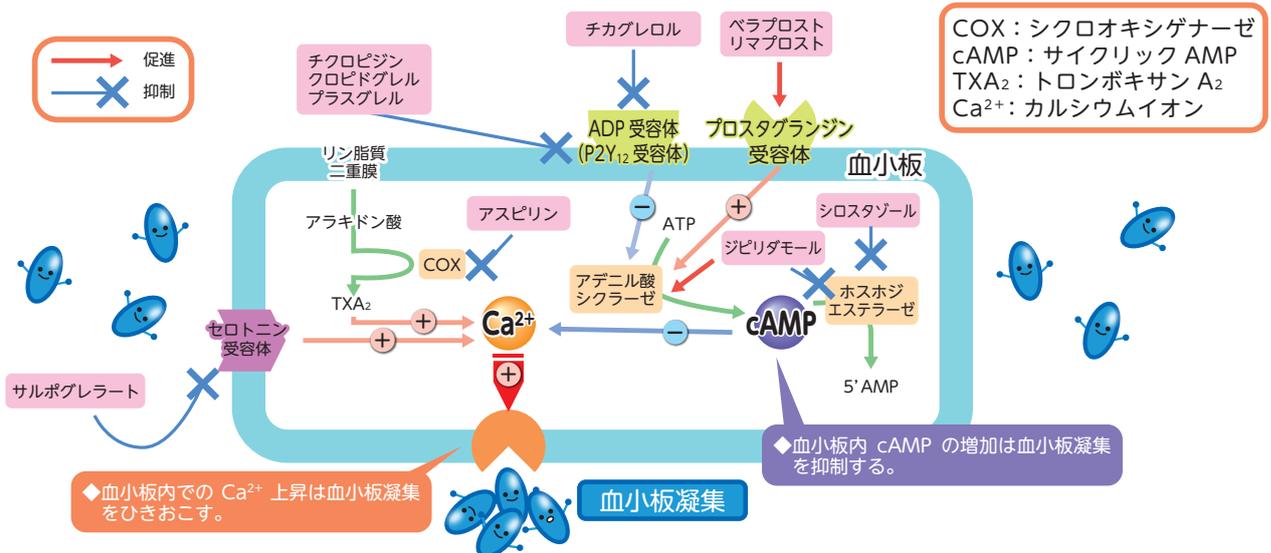
血栓を作る要因②  
弾力がなくもろい血管

次のような場合に血栓の予防が重要とされています



## お薬の作用点

血小板凝集反応は、血小板内の  $Ca^{2+}$  濃度の上昇による血小板凝集促進と、cAMP による血小板凝集抑制のバランスで調整されています。抗血小板薬は、主に動脈において一次止血で働く血小板の凝集を抑制する作用を持ち、血管の中で血栓（血のかたまり）ができるのを防ぎ、血液を流れやすくします。



# 血液の流れを良くする薬一覧

分類	一般名	お薬の作用	主な副作用
シクロオキシゲナーゼ阻害薬	<input type="checkbox"/> アスピリン・ダイアルミネート配合 <input type="checkbox"/> アスピリン	血小板の COX-1 のみを阻害し、血小板を活性化させる TXA <sub>2</sub> の生成を抑制し血液を固まりにくくします。	胃腸障害、出血傾向、アスピリン喘息、腎機能障害、肝機能障害など
ADP(P2Y <sub>12</sub> ) 受容体阻害薬	<input type="checkbox"/> チクロピジン <input type="checkbox"/> クロピドグレル <input type="checkbox"/> プラスグレル <input type="checkbox"/> チカグレロル	持続的な血小板凝集を引き起こす P2Y <sub>12</sub> 受容体の働きを抑制することで血液を固まりにくくします。	出血、食欲不振、肝機能障害、顆粒球減少、白血球減少、悪心、下痢、呼吸困難、貧血、発疹など
配合剤 ADP (P2Y <sub>12</sub> ) 受容体阻害薬・シクロオキシゲナーゼ阻害薬	<input type="checkbox"/> クロピドグレル/アスピリン	異なる作用機序の抗血小板薬 2 剤を併用することで血液を固まりにくくし、血行を良くします。	出血、胃・十二指腸潰瘍、肝機能障害、貧血、消化器不快感、頭痛、発疹など
ホスホジエステラーゼ3 (PDE3) 阻害薬	<input type="checkbox"/> シロスタゾール	血小板の凝集抑制に働く cAMP を増加させ、血液を固まりにくくし、血行を良くします。	動悸・頭痛・頭重感、めまい、悪心・嘔吐など
セロトニン受容体阻害薬	<input type="checkbox"/> サルボグレラート	セロトニン受容体の作用を阻害し、血小板の凝集抑制や血管の収縮抑制をすることで、血行を良くします。	胃不快感、悪心・嘔吐、動悸、頭痛、出血、肝機能障害など
プロスタグランジン製剤	<input type="checkbox"/> ベラプロスト <input type="checkbox"/> リマプロスト	プロスタグランジン受容体を介した血小板凝集抑制作用により血液を固まりにくくするとともに、血管を広げる作用により血行を良くします。	下痢、悪心・嘔吐、ほてり、発疹、腹部及び心窩部不快感、頭痛など
冠循環改善剤	<input type="checkbox"/> ジピリダモール	血小板の凝集抑制に働く cAMP の合成促進・分解抑制により cAMP を増加させ、血液を固まりにくくし、血行を良くします。	頭痛、めまい、熱感、嘔気、心窩部痛、腹痛、脱力・倦怠感など
配合剤 (抗血小板薬・胃酸分泌抑制薬)	<input type="checkbox"/> アスピリン/ランソプラゾール <input type="checkbox"/> アスピリン/ポノプラザン	アスピリンの COX-1 阻害作用による胃・十二指腸潰瘍の予防のため、胃酸の分泌を抑えるお薬を配合したお薬です。	胃腸障害、出血傾向、アスピリン喘息、腎機能障害、肝機能障害など

## お薬は飲み続けることが大事

自己判断で服用をやめたり、服用方法を変更したりしないようにしましょう。飲み忘れ防止には、お薬カレンダーや薬ケースも上手に利用しましょう。



## 寒暖差や脱水症状に注意しましょう

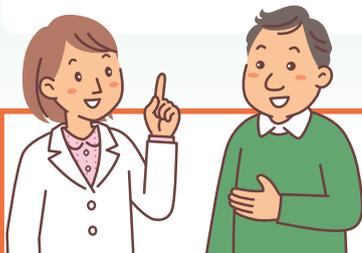
寒暖差は、血圧の急激な変動を引き起こすため、冬場の浴室や脱衣所では暖房を活用したり、廊下やトイレに行くときは上着を一枚追加しましょう。また、脱水症状は脳梗塞リスクになりますのでこまめに水分補給をしましょう。

## こんなときはお薬手帳を 医師・薬剤師に見せてください

- ✓ 歯の治療を受けるとき
- ✓ 手術を受けるとき
- ✓ 内視鏡検査・治療を受けるとき
- ✓ 市販薬、サプリメントの購入をするとき
- ✓ 救急搬送されたとき



服用しているお薬の種類によって、休薬などを行うことがありますので、医師の指示通りに服用しましょう。



動脈硬化は、加齢・喫煙・脂質異常症・高血圧・飲酒・糖尿病などの危険因子が重なることによって発症しやすくなります。適度な運動やバランスのよい適量の食事、禁煙によって生活習慣を整えることは、動脈硬化の進行抑制にもつながります。

## お薬の服用中は血が 止まりにくくなっています

- ◆ケガ：  
タオルなどで10分程度、しっかり押さえる  
(圧迫止血)
- ◆鼻血：  
下を向いて5分程度、  
鼻をつまむ

適切な止血方法をして、血が止まらない場合にはすぐに医師に連絡しましょう。



小鼻を  
圧迫



## こんな症状があれば医師・薬剤師 に相談しましょう

皮膚出血、青あざができる・広がる、便が黒くなる、血尿、説明のつかない歯ぐきの出血・鼻血、適切な止血方法をして血が止まらない、等